

ほほ笑みの医療こそ、こどもの医療

病院長 中村 肇



新年おめでとうございます。

昨年10月には周産期医療センターが開設10周年を迎えました。井戸知事をはじめ、当センターに入院しておられたお母様とお子様方400組近くの方々のご参加を頂き、記念式典・交流会を賑々しく開催することができました。

本年は、病院設立35周年に当たります。わが国の小児医療施設のリーダーとして高度専門医療を提供し、小児医療の発展に貢献してきました。近年、医療技術の進歩とともに乳児死亡率は著しく低下し、県民の医療への期待も大きく変化しています。われわれは時代のニーズに応えるべく、一昨年10月からは暫定的とはいえ兵庫県下の小児の三次救急センターとしての機能を担い、重篤患者様を中心に積極的に小児救急医療に取り組んでいます。さらに、昨年末からは、親の育児不安解消のために兵庫県が開始した小児救急電話相談事業#8000にも本院の医療スタッフが全面的に協力しているところです。

新年を迎えるに当り、もう一度小児医療の原点に立ち戻り、より一層の努力をしたいと考えています。

まず、われわれは医療者であると同時に、子どもたちの親代わりです。ほほ笑みが、病と闘う子どもたちに安心と信頼、勇気を与えます。ほほ笑みの医療こそ、こども病院の医療です。

ついで、地域の医療機関と緊密な連携を図り、より幅の広い医療を展開することです。退院した子どもたちが、安心して地域で医療を受けられるように、院内だけでなく院外の方々とも協力して子どもたちを支えていくネットワークづくりを図りたいと考えています。また、われわれは小児専門医療機関としてもつ数々の情報を国の内外に向けて発信していかねばなりません。

こども病院にはいろんな課題が山積しています。ひとつひとつを皆様方の英知と情熱で解決し、素晴らしい年になることを念じています。



2005年1月

周産期医療センターが 開設10周年を迎えました

ANNIVERSARY
10th

周産期医療センター所長 大橋正伸

平成6年10月に周産期医療センターが開設されてから早いもので10周年を迎えることとなりました。

これを記念して10月3日(土)に神戸国際会議場で記念講演会ならびに交流会を開催いたしました。開催にあたり案内状を周産期医療に従事されている行政、医師、助産師、看護師の方々だけではなく、当センターで出生、あるいは他施設で出生したのち当センター新生児科に搬送された子どもさんとお母さまがたにもお送りしました。また当院のホームページにも掲載して県民のかたがたにもお知らせしました。お蔭さまで総勢500名にも達する超満員のご参加をいただき、井戸敏三知事をはじめ、県議会、医師会、看護協会より多数のご来賓のご列席のもと盛大に執り行われました。講演会では東京女子医科大学附属病院母子総合医療センター所長の仁志田博司教授より「子どもにあたたかい心を育む～シルクロード・ランニング・ジャーニー～」という題のじつに楽しいご講演がありました。講演会のあと引き続いてご家族とスタッフの交流会に移りました。交流会では後藤武病院事業管理者のご挨拶のあと、あの阪神・淡路大震災の4時間前に当センターで生まれた強運の持ち主、栗原健太郎君(小学4年生)からスタッフ一同に感謝のご挨拶をいただきました。

また、子ども達からスタッフに花束が贈呈されました。そのあと子ども達・ご家族とスタッフが丸となってわきあいあいのうちに楽しいひとときを過ごして会を終了しました。カットの



写真は交流会の記念撮影です。人数が多かったため4班に分けて撮りました。

これからもスタッフ一同は周産期医療の進歩のため日々研鑽を重ねるべく努力する所存です。県民の皆様にはなにとぞ今後とも当センターにご理解とご支援をお願いいたしますとともに、この10年の間に当センターに関わられたましたご家族の皆様がたのご多幸を心より祈念申し上げます。



兵庫県立こども病院
周産期医療センター10周年記念講演会



周産期医療センター10周年記念





子どもの包茎

泌尿器科 杉多良文

【はじめに】

昨今週刊誌・新聞などで包茎治療の広告をご覧になることがあると思います。包茎は悪い病気で、すぐに治療した方が良いという主旨の広告です。このようなマスコミやお母さん方の口コミの影響からか、当科では男児の包茎に対するご相談が少なくありません。「この子の兄はおちんちんの皮がむけるのに、この子はむけないんです。」「周りのお母さんはお風呂で皮をむいて洗ってるらしいんですけど、この子は皮がむけずに洗えないんです。」といったご相談です。陰茎は男性としてのシンボルであり、我が息子の陰茎に問題があっては大変とご両親がお考えになるのも無理はないと思います。そこで今回は包茎についてご説明します。

【亀頭と包皮の関係】

陰茎の先端に亀頭があり、その亀頭を包んでいるのが包皮です。包皮をめくれば（翻転すれば）亀頭が露出します。包皮の口径が亀頭よりも狭いため、亀頭が露出できない状態が包茎です。年齢とともに包皮の口径が自然に広がっていくため、包茎の男児は減っていきます。皮をかぶっていると陰茎が成長しないと誤解される方がおられますが、そのようなことはありません。二次性徴を迎えると精巣（睪丸）から分泌される男性ホルモンの影響を受けて、身体および外陰部が男性化し、包皮も伸展します。この時期になっても包茎であれば手術が必要になります。ある統計では男性の約9%が包茎の手術が必要になると報告されています。

【包茎の治療】

子供の包茎をどのように扱うかは、私ども子供を専門とする泌尿器科医の間でも様々な意見があり統一した見解はありません。包茎に対して積極的に治療する施設もあれば、治療しない施設もあります。包茎の主な治療法は以下のごとくです。

- 1)包皮の狭いところを器具で裂き、繰り返しめくる
- 2)ステロイド軟こうや女性ホルモン軟こうなどを塗りながら、繰り返しめくる

- 3)包皮の狭いところを1ヶ所または数ヶ所切開・縫合してめくれるようにする
- 4)成人の包茎に対する手術と同じように包皮全体を切除し、亀頭が常に出ている状態にする（包皮環状切除術）

もちろんどの治療法もうまくいくケースもありますが、1)では子供は痛みが触らせてくれなくなったり、皮膚が癒着化（白く硬くなった状態）し、かえって自然にめくれなくなる、2)では治療中止によって元通りなる、3)では縫い目が残ったり、包皮がエリマキトカゲのようになり外観的に問題が生じる場合がある、4)では大人は亀頭が常に出ているのは当たり前ですが、子供の間は亀頭が露出している子供のほうが少なく、手術を受けることにより周りの子供と違った外観になる、などの問題があります。

【当科の方針】

当科では子供の包茎は治療する必要がないと考えています。もちろん尿路感染症や、包皮が癒着化して排尿障害の原因になるような病的な包茎は治療しますが、そのような特別な場合を除き、「子供の包茎は病気ではない」と考えています。包茎のため亀頭が洗えなくても、子供の間は不潔ではありません。排尿のときに包皮が膨らむ場合でも包皮の口径は5mm程度ありますので排尿が困難になることはありませんし、包皮炎（包皮が細菌感染し赤くなり、排尿のときに痛みがある）を起こす場合でも抗菌薬治療により数日で治り、また小学生になるとその頻度は激減します。「子供が大きくなったら、おちんちんを見せてくれないかもしれない。」「子供が大きくなって悩むより、今解決したい。」というお考えのご両親がおられますが、このようになってくると医学的な問題というよりは、対応の仕方の問題です。当科では二次性徴が起きても包茎ならばその時点で、一番きれいな外観になる4)の包皮環状切除術を行えば良いと考えています。ただし排尿の際問題が生じる埋没陰茎は、治療を必要としますのでご相談下さい。

第3回

患者意向調査実施結果報告書

アメニティ向上企画運営部会 笹山美代子

調査ご協力ありがとうございました。

患者様・ご家族が医療に向かい合う時のニーズは、「安全・安心・納得できる医療」に尽きると考えます。平成14年度から開始している「患者意向調査」の結果を病院として真摯にうけとめ、改善のヒントを学び取り、安全管理対策への活用や患者様・ご家族との信頼関係のさらなる構築にむけ、組織的に取り組むことが重要です。

以下、今年度の実施結果概要と今後の課題についてご報告いたします。



1. 調査時期

平成16年8月30日(月)～9月3日(金) 5日間
(ただし、入院は8月31日(火)1日間)



2. 調査内容 (調査用紙は全県立病院共通)

1) 属性 (年齢・性別など)

2) ハード面・ソフト面についての設問事項

ハード面→利便性、環境整備状況など、どれだけアメニティ・利便性を考えた努力がなされているか。

ソフト面→医療従事者の対応(病院職員全員) 接遇をふくめインフォームドコンセントを中心とした「安心・納得の医療の提供」がどのくらい評価されているか。



3. 結果

【外来】回収数604 (回収率90.6%)

【入院】回収数118 (回収率84.0%)

昨年の本紙への調査結果報告は、質問毎の回答数と率を提示したところで終わってしまいました。紙面の都合もあり、今回も総てをご報告できませんが、結果の概要と今後の課題について述べます。

1) **接遇をふくめインフォームドコンセントを中心とした「安心・納得の医療の提供」がどれだけ評価されているかについて：**

① **医師による病状説明・治療法の説明**については、76～77%の人が問題なしと評価している。また**医師の基本的接遇態度**については、入院・外来とも前年比4～5%高い評価結果が得られた。

しかし問題と感じている病状・治療説明について、具体的なコメントの中に「先生のなかで意見が統一されないうちに次の治療方法や予定が伝えられ、他の先生によってくつがえされることがあった。動揺や不信の原因になるので避けていただきたい」「言葉が少ないのでわかりづらい」などがあった。

医師への信頼感に問題なしとした人は、前年より7%高く81.2%であった。問題ありの理由は、「相談時の対応」「十分な説明がない」である。

② **看護の方法や療養生活の支援**については、入院・外来とも前年より高い評価を得ており、特に外来においては問題なしが81%→87%となっている。

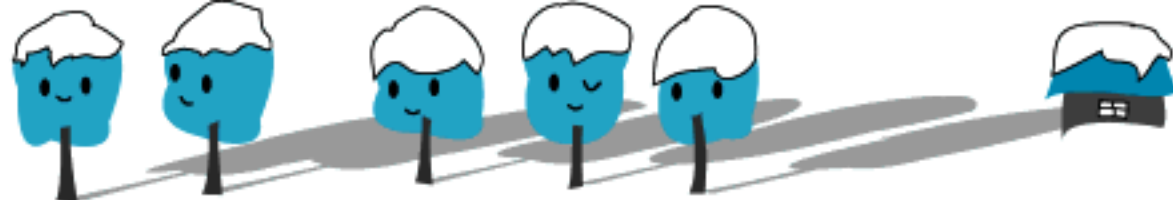
問題ありの理由として、入院においては看護のインフォームドコンセント不足であり、入院・外来共通の問題は「看護の丁寧さ」である。

看護師の接遇態度については前年比ほぼ同様である。(問題なし84～86%)

看護師への信頼感に問題なしとした人は、78%であった。問題ありの理由は、「十分な引継ぎによるチームでの看護」「看護技術および能力」である。

第3回

患者意向調査実施結果報告書



コメントとして「看護師によって処置の対応が違うことがある」「ひとつのことをするのに時間がかかりすぎる。もっと手際よく」などである。

③ 薬局における説明・医療技術者の検査方法の説明について、90%が問題なしである。

接遇態度については92%が問題なしであるが、前年よりやや低い結果であった。

コメントとして「検査でのほげまじやいたわりがなかった」「同じ薬のときは何の説明もない」などである。

④ 受付・会計職員の基本的接遇態度について、問題なしが76%であり低い評価となっている。前年と同様にコメント数も多く、その大半が対応のまずさを指摘する内容であった。

2) 病院の設備や環境状況について、どれだけ患者様ご家族のアメニティ・利便性を考えた努力がされているかについて：

① 病院としての情報提供について84%が問題なしとしている。(前年76%)

② 診療日程および診療時間設定については29%が問題だと感じている。留意すべき内容として
* 診療開始時間が遅い、* 診察終了時間が早いという指摘がある。

③ 外来待ち時間については、73%が問題だと感じている。前年同様、診察までの待ち時間が一番長い。

④ 病院設備について42%(外来)~60%(入院)が問題と感じている。

⑤ 駐車場の利便性について69%が問題だと感じている。



⑥ 療養生活における快適性については38%が問題だと感じている。昨年同様、病棟・病室の清潔感、空調、病室からの看護師への連絡のとりやすさの問題が主である。

⑦ 療養生活における食事については、43%が問題だと感じている。昨年同様、食事の味付食事時間(夕食)が早いことがその主な理由である。

⑧ 退院後の療養生活に対する支援に関して94%が問題なしと回答している。(前年84%)

⑨ 病院の治療内容や設備を含めた全体的な印象について58%(外来)~62%(入院)が問題なしと回答している。



4.まとめ

1) 接遇をふくめインフォームドコンセントを中心とした「安心・納得の医療提供」についてさらなる努力が必要である。県立こども病院すべての職員に「挨拶」「十分な説明」「相談や質問に対する応答時の態度」「自由に相談できる雰囲気」「励まじやいたわり、温かみのある態度」が求められていることの再認識とその実践が重要である。

2) 外来での待ち時間対策、受付・会計窓口での接遇改善を図ること。

3) 病院設備については、構造上の問題で改善不可能なところもあるが、前年にいくつかの改善(外来こども用椅子、壁のペインティング、プレイルーム改造)が実行できた。今年度は外来待合イスの整備・トイレの改修案を具現化していく。

4) 食事については、食事時間・味付・量などについて継続検討課題である。

5) 看護部として、継続教育特に現場での看護技術教育の充実と実践、看護チームとしての継続看護についてさらなる見直しと実践が重要である。

6) 退院後の療養生活に対する支援については、より具体的・個別的な関わりが求められる。

「最近は何もないやつが増えている」

栄養指導課長 下浦佳之

Notice
from Dietician
栄養指導課案内

「最近は何もないやつが増えている」という「おじさん？」からのぼやきのことばではありません。これは魚の話です。

最近「骨なし魚」が話題になっています。どんなものかという、鯖(さば)や秋刀魚(さんま)の頭や背骨だけでなく小骨まで取り去った状態で売られる「骨がない魚」がスーパー等で販売されています。

「え！それってどのようにして養殖されて、骨のない魚が作られるの？」

「遺伝子操作もそこまできたの？」

「骨は薬品処理されて溶けてしまうの？」と疑問を持たれた方。答えは大小の骨を抜く作業は人の手による

もので、3枚におろした後、1本1本ピンセットを使って骨を抜いてゆき、一般的に結着剤(食品添加物)を使用し元の魚の形に貼り合わせるのです。特殊な加工機器を使用し国内で製造されているものもありますが、大半は人件費の安い中国で一匹ずつ手作業で骨を抜き出す処理がなされ日本に冷凍輸入されているのです。

そして「骨なし魚をめぐる論争」、つまり賛成派？反対派？にわかれ「日本の食文化が変わる？」とま



で議論される問題となっています。

確かに骨なし魚は食べやすく、骨の刺さる心配はほとんどない。しかし「魚に骨があるなんて当たり前じゃねえか。骨はどけながら食うんだぞ！」

とか「今でも本当の魚の姿を知らない子供が増えているのに、これが本当の魚だと思われたらどうするのか?」「魚というものは本来、新鮮=おいしいもの…様々な加工工程を経ると魚の味にも影響する?」「小骨を摂取しないと益々骨が弱くなるし、噛み砕く力だって弱くなる」「魚の頭やはらすを活用した料理が不可能になってしまう」「骨を箸で上手にはずして食べるという、我が国の魚の食文化が廃れる」等々賛否両論で

す。

食料資源の問題、加工食品等の輸入依存の問題、表示の問題、環境保全、食育などなど総合的に検討・判断しなければならないことですね。

親が子供と魚と一緒に食べながら「小骨を取り除いて魚を上手に食べる」などのお手本を示して教え、いろいろな話を囲む食卓の雰囲気大切にしたいと思います。

みなさんはどう考えられますか?

今回は、神戸市の小児慢性特定疾患見舞金制度についてご紹介します。

小児慢性特定疾患の制度は、慢性腎疾患・慢性心疾患・膠原病の方の場合、「1ヶ月以上の入院(予定)」の場合にしか制度が利用できません。それ以外の1ヶ月未満の入院医療費、通院医療費の負担軽減のためつくられた、神戸市独自の制度です。

◆対象者・支給額

疾患名	支給月額	対象者
慢性腎疾患 (ネフローゼ症候群、水腎症など)	4,600円	* 神戸市在住の方 * 20歳未満
慢性心疾患	2,300円	* 通院もしくは、 1ヶ月未満の 入院をされた方
膠原病(若年性関節リウマチ除く)	4,600円	

◆申請時期 毎年3月と9月の2回
(上半期) 3月~8月受診分 9月1~30日受付
(下半期) 9月~翌年2月受診分 3月1~31日受付

◆申請窓口 住居地の保健所(区役所内)



◆申請方法 1) 保健所で、「小児慢性特定疾患助成見舞金支給申請書」をもらってくる。
2) 申請書の「診療期間の証明書」欄に、医師の証明を受ける。
3) 必要事項を記入して、住居地の保健所に届け出る。

◆申請費用 証明書料 1,000円
各種医療費助成制度に関すること等のご質問・ご相談は総合受付内、質問・相談コーナーでお気軽にお尋ねください。

News
from 医事課ニュース
Administration
office



卒煙外来開設にあたって

橋本 崇

No Smoking

近年、喫煙・受動喫煙の有害性が次々と明らかになっていますが、特に成長発達過程にある小児はタバコからの様々な健康被害を受けやすいことをご存知でしょうか。

日本での喫煙率は、成人ではかろうじて減少傾向にありますが、びっくりすることに未成年者では増加傾向にあるのです。また、喫煙者の80～90%は未成年のうちから吸いはじめているのが現状です。国の調査（02年度）によると「喫煙したことがある」中学3年生は、男子55.7%、女子36.7%で、「毎日喫煙する」が男子25.9%、女子8.2%もいるのです。そして、これら未成年喫煙者は非行歴のある「問題児」に限ったことではなく、普通の子供たちが好奇心からずっけているというのが現状です。「なんとなく」、「友達からすすめられて」、「かっこいいと思った」本当に些細なことからののです。そして子供は脳や体が柔軟で薬物の影響を受けやすいため、吸い始めから短期間で依存状態に陥ってしまうのです。でも、このような未成年喫煙者に対する家族、学校での対応は叱責や謹慎処分などになってしまっています。しかし彼らは、当初は自分の意志で吸っているのですが、その後の多くはニコチン依存状態でやめられなくなってしまっているのです。ですので、このような対応では子供に禁煙させるには限界があります。最近では成人対象の禁煙外来を、未成年者が受診するケースが最近増加してきております。しかしやはり成人対象の禁煙外来を受診するというのは抵抗があり、その躊躇がよりニコチンへの依存性を高めていきます。

自分でタバコをやめられなくて苦しんでいる子供たちは多いのです。今回、このような子供たちが禁煙治療を気軽に受けられるような窓口を開設いたしました。

対象者 18歳以下
開始日 平成16年11月
実施日時 毎週水曜日午後（完全予約制）

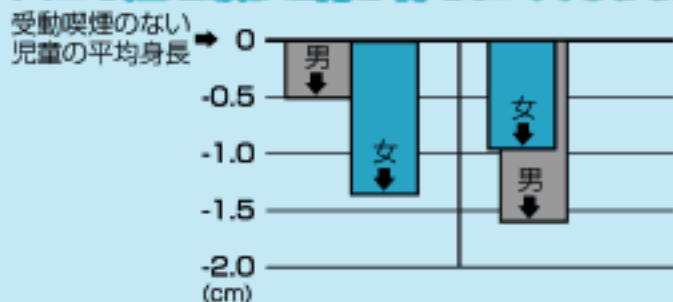
- 紹介状はなくてもかまいませんが、その場合、初診時の料金が1,700円高くなります。
- 病院の予約センターにお電話でご予約ください。

タバコの煙は子への虐待!

こどもに煙を吸わせると...

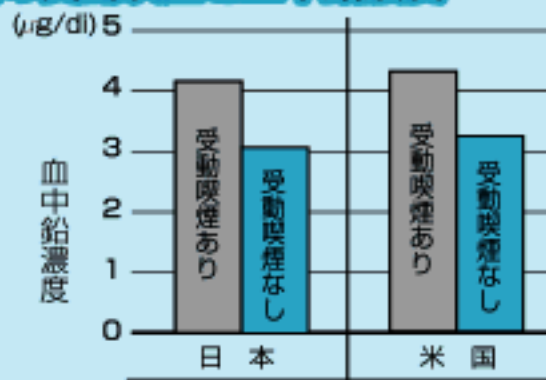
- 1.乳幼児突然死症候群の原因に
- 2.喘息・呼吸器疾患・中耳炎・・・の原因に
- 3.病気入院が増える
- 4.身長伸びが悪くなる
- 5.知能の発達が劣る
- 6.虫歯が増える
- 7.成人後発がん率が高くなる

タバコの煙を吸うと背が伸びにくくなります



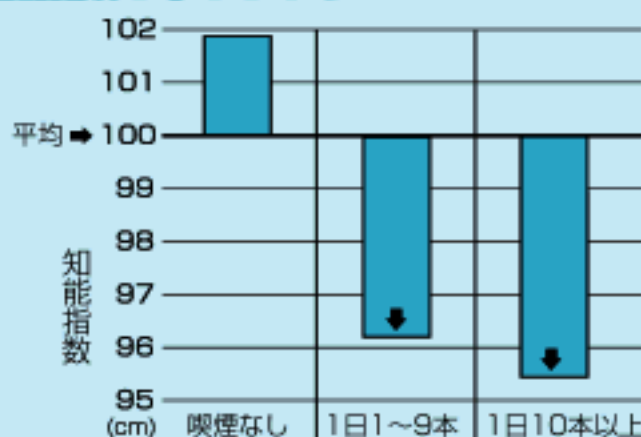
受動喫煙による小学生の身長低下 (米国2都市) (C.S.Berkey et al, 1984)

小児の受動喫煙と血中鉛濃度



鉛=成長を妨げ、知能を低下させる (C.S.Berkey et al, 1984)

知能指数も下がります



妊娠中の喫煙によるこどもの計算能力の低下 (11歳時) (N.R.Butler and H.Goldstein, 1973)





基本理念

周産期医療および小児医療専門施設として、母と子どもの総合的、高度専門的な医療を通じて、親と地域社会と一体になって子どもたちの健やかな成長を目指します。

基本方針

- 1.子どもの権利を重視した医療の実践。
- 2.安心と信頼の医療の遂行。
- 3.専門的な高度医療の推進。
- 4.地域の医療・保健・福祉機関との連携。
- 5.親と子の健康啓発活動への貢献。
- 6.子どもへの愛とまことに満ちた医療人育成。

患者権利宣言

- 1.あなたはひとりの人間として尊重され、おもいやりのある医療を受ける権利があります。
 - 2.あなたとご家族は、理解しやすい言葉や方法で十分な説明と情報を得て、治療計画に参加する権利があります。
 - 3.あなたとご家族は、医療について同意や拒否の権利があります。
 - 4.あなたとご家族のプライバシーは守られます。
- ◆みなさまと私たち職員がお互いを尊重しあい、良質な医療を実現していけるよう次のことにご協力ください。
- 病気について理解し、安心して医療が受けられるよう、今までの経過・病状の変化や問題について詳しく正確にお知らせください。
 - 病院のきまりや約束ごとをお守りください。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。今季号を担当致しました、村田です。初めての編集で、とまどいもありましたが、原稿を寄せて下さった方々、行さん、真に有難うございました。今季号は、周産期医療センター10周年、卒煙外来開始等様々な記事で満載です。また今年も1年、こども病院に関する、分かりやすい情報等を提供できればと思いますので、どうぞよろ

しくお願い致します。まだまだ寒い折ですが、皆々様、お風邪等お体に気をつけて下さいね。

それでは来季号もお楽しみに！

兵庫県立こども病院広報誌編集委員会

大橋正伸 斉藤富美代 正井秀幸 眞浦洋子 村田和歌子 行祥子

本誌に関するご感想、ご希望、ご質問はこちらまで。

兵庫県立こども病院

〒654-0081 神戸市須磨区高倉台1丁目1-1

TEL078-732-6961 FAX078-735-0910

URL:<http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>

E-MAIL:info_kch@hp.pref.hyogo.jp